

保育実践シート（園の概要）

2歳児クラス・園児数：34名



実践内容の概要

【テーマ】 身体全身を動かす遊びを楽しむ。

領域：健康

カテゴリー：体を動かす遊び

課題：M0

走る・跳ぶ・登る・押す・引っ張るなどの全身を使う遊びを楽しむ

【活動時間】：1回につき約20分～45分

これまでの環境



体を動かす遊びや場所の環境はあるが、走り回ったり外を眺めたりして遊びの発展が見られなかった。

今回、用意した環境



フラフープなどの運動用具などを用意し、身体全身を動かせる遊びを導入していった。

子どもたちの姿が
どうなったか



友だち同士で電車遊びに発展させたり、保育者と一緒に身体を動かしたりして遊びが発展していった。

今回の発達項目を選んだ背景

【現状の環境で困っていることなどをご記入ください】

- ・体幹が弱くバランスを崩しやすいため、室内でも戸外でもどこかにぶついたり、転んだ際に手が出ずに怪我につながることが多い。また、姿勢が悪い・疲れやすい・集中力が続かない等の姿も見られている。
- ・体を動かす空間はあるが、遊具の数が少なく、走り回るだけになってしまいうこともあり、遊びが発展していかないこともあった。



今回、用意した環境

【今回取り組んだ環境についてご記入ください】

- ・遊具の数が少なかったため、遊具の全体量を増やした。その際、両足ジャンプ、くぐる、ぶら下る、転がる、橋を渡るなど全身を使って遊べるような遊具を選択した。
- ・保育室内でも体を動かせるようなコーナー作りや集団遊びを行った。



環境づくりで配慮・工夫した点

【取り組むとき、どのような工夫をしましたか？】

- ・室内でも子どもたちの興味に合わせて好きな運動が出来るようにコーナーを分けた。その際、同じ動きでも難易度を変える等、興味や発達に合わせて子ども自身が選択出来るようにした。
- ・前庭感覚などの感覚の発達を促すため、全身を使ってバランスをとる動きが出来るような遊びを多く取り入れた。



子どもの様子の変化

【子どもたちの様子はどう変化しましたか？】

- ・橋を渡る際、横向きでカニ歩きをしていたが、体を正面に向け、片足ずつ足を出して歩ける姿が増えてきた。体が横に傾いた際には両手を広げてバランスをとろうとする姿が見られた。
- ・高い所から降りる際、片足ずつ地面に降りている子が多かったが、ジャンプをして両足で着地をすることが出来るようになってきた。また、着地の際は転びそうになると手をついて回避しようとする力がついてきた。
- ・体の使い方が分かってきたことで、重心の傾きに対し力を入れて転倒しないようにバランスをとる姿が増え、転倒による怪我が減ってきた。
- ・友だちが遊んでいる姿を見ることで、挑戦してみようとする心が育ってきた。



課題と次にやってみたいこと

【取り組んでみての課題】

- ・環境を設定していくことで、子どもたちは積極的に身体を動かして遊ぶ姿が見られた。また、活動を通して運動遊びをやめたい子、続けたい子など様々な姿が見られていたので、保育室内に運動が出来る環境を常設し選択できるような環境も必要ではないかと感じた。
- ・子どもたちの発達に応じて、難易度を変更していったが、時には発達に応じていない難易度に挑戦しようとする場面が見られた。安全に留意しつつ挑戦したい気持ちを受け止め、周りの子がどのようにして行っているのかを見られるような声を掛けることで、自分の力で達成する姿も見られた。日々子どもたちの発達の状況の認識を職員間で共有していくことが大切であると感じた。

【次にやってみたいこと】

- ・保育室内に運動遊びコーナーを常設して、子どもたちが「やりたい」といった時には、コーナーを開けるような環境を設定していきたい。
- ・いろいろなことに挑戦したいと思える環境設定や仕掛け作りの幅を更に広げていきたい。